

令和 8 年度病害虫発生予察情報
発生予報第 7 号(8 月)

令和 8 年 8 月 4 日
発表：福島県病害虫防除所

注意が必要な病害虫

普通 作物	■ 水稲：斑点米カメムシ類 -① (令和 8 年 7 月 13 日付け注意報参考)
	■ 大豆：吸実性カメムシ類 -②

注) ①現状で、注意報レベルの防除を要すると判断された病害虫
②予察調査の結果、発生時期が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病害虫の中で、発生量や時期などが特に懸念されるもの。
③下記 2 (主な病害虫の発生予報) の項目に入らないが、調査の結果、県全域的に発生が多く、問題になると判断した病害虫

1 主な病害虫の発生予報
(1) 普通作物

作物名	病害虫名	地方	発生 時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (穂いもち)	全 域	平年並	平年並	農業総合センター水稲作柄 解析試験の結果から、本年の出 穂期は平年並と予想される。 7 月下旬の巡回調査では、葉 いもちの発生ほ場割合は平年 より低かったが、BLASTAM によ る葉いもち感染好適条件を満 たす日は 7 月下旬まで周期的 に出現している (±)。	上位葉に病斑がみられる場 合は、早急に薬剤防除を実施す る。病斑がみられなくても穂い もちが発生する場合があるた め、常発地では特に注意する。 散布剤は穂ばらみ末期と穂 揃期に施用する。 薬剤耐性菌の発達を防ぐた め、同一系統の薬剤の連用はさ ける。 防除時期や対策については、 令和 8 年 8 月 4 日付け防除対 策を参照する。
	紋枯病	全 域	平年並	やや多	本年の出穂期は、平年並と予 想される。 7 月下旬の発生ほ場割合は、 県全体で平年並であった(±)。 天候予報(仙台管区气象台 7 月 30 日発表)によると、向こ う 1 か月の気温は高いと予想 されている (+)	散布剤は穂ばらみ期～穂揃 期に施用する。 気温が高いと上位葉鞘への 伸展が進む。特に前年に発生が 多かったほ場では注意する。 防除時期や対策については、 令和 8 年 8 月 4 日付け防除対 策を参照する。
	斑点米 カメムシ類	全 域	平年並	やや多	本年の出穂期は平年並と予 想される。 7 月下旬の畦畔での平均す くい取り数は、平年よりやや多 く、天候予報によると、向こ う 1 か月の気温は高いと予想 されている (+)。	防除時期や対策については、 令和 8 年 7 月 10 日付け防除対 策、令和 8 年 7 月 13 日付け注 意報を参照する。

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
大豆	紫斑病	全域	－	平年並	天候予報によると、向こう1か月の降水量は平年並から少ないと予想される（±）。	開花後 20～40 日頃に薬剤を 1 ～ 2 回散布する。その際、薬剤が莢に十分付着するようにする。
	べと病	全域	－	やや多	7 月の巡回調査での発生ほ場割合は例年並であった（±）。 前年の被害粒率は例年よりやや高かった（+）。	発生が多く見られるほ場では、薬剤散布を行う。
	吸実性カメムシ類	全域	－	やや多	7 月の巡回調査での発生ほ場割合は、平年並であった（±）。 天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている（+）。	発生がみられる場合は着莢期（8 月中下旬）～子実肥大期（9 月上～下旬）に薬剤散布を実施する。
	チョウ目幼虫 （ハスモンヨトウ、ツメクサガ）	全域	－	やや少	7 月の巡回調査の食害面積率（ハスモンヨトウ）は、例年同様、発生がなく、払い落とし頭数（ツメクサガ）は、例年より少なかった（－）。	幼虫の幼齢が進むと加害量が急激に増加するため、食害が見られたら早急に薬剤散布を実施する。

注）予報の根拠の中で（+）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。



病害虫防除所
HP は
←こちらから



病害虫に関する
防除対策のページは
←こちらから